

千歳渡船場(ちとせとせんじょう)  
 ~大正区内で航路が一番長い渡船~

### 概要

鶴町地域は、大阪市の築港計画(明治 30 年~昭和 3 年)によって埋め立てられ、大正 8 年には万葉集の歌(巻 6-1064)に因み「鶴町」と名づけられました。当地と対岸にあった千歳新田(現在は大部分が大正内港となっています)を結ぶ橋として、大正 11 年に旧千歳橋が架けられ市電も運行されていましたが、大正内港工事のため昭和 32 年に橋は撤去されこの渡船場が設けられました。



『大正区ホームページ』から転載

渡船は大正区鶴町 4 丁目と同区北恩加島 2 丁目を結んでいます(岸壁間 371m)。

鶴町側からは、多くの船が浮かぶ大正内港のかなたに、昭和山(標高 33m)や千島団地等が眺められ、尻無川の広々とした河口風景ともあいまって、ウォーターフロントの美しい景観となっています。

平成 15 年 4 月には、この渡しの上を全長 1,064m、海面からの高さ 28m の新「千歳橋」が完成し大正区の新たなランドマークとなっています。

